やさしい美術プロジェクト情報誌

ヤサビのイト

7·8月号
2008 vol.5

やさしい美術プロジェクトは病院と協働で「やすらぎのある快適な医療空間」を模索し創出する、学生主体の活動です。

▲病院訪問会で患者さんとお話しをするメンバー。

訪問会開催

六月十三日、昨日までの梅雨空とはうって変わり青空が広がったこの日、プロジェクト創設当時から毎年行なっている病院訪問会が行われました。

バスに乗り込むこと一時間半。ほどなくして豊田市足助町に着くと、プロジェクトメンバーはまず足助病院周辺地域のフィールドワークを行ないました。楓の新緑がまぶしい木漏れ日の中を歩き、巴川の水に触れ、足助という地域を肌で感じます。

その後、足助病院を訪問しました。メンバーは実際に病室を訪れ、病院生活や患者さんご自身のお話を伺うなど、患者さんとふれあう貴重な時間を過ごしました。最初は緊張気味だった患者さんもメンバーも、地域のことや患者さんのご家族のこと、四季や趣味の話になると次第にうちとけ、病室をなごやかな空気が包んでゆきました。

今回メンバーが経験した患者さんとの連帯感、地域とのつながりは作品や企画を生む原動力となります。現在、病院で展示されているプロジェクトの作品もこういった体験を基にかたち作られたものなのです。

（文・竹中／張）

P2 「こんにちは、やさしい美術プロジェクトです。」
特集 病院訪問会を終えてプロジェクトメンバーたちが受け止めたもの

P3 まっすぐ届く、柔らかな光
インタビュー：竹中 仁美（情報D・2年）
作品「薫る hikari」の設置にあたって…
こころの窓を共有する
インタビュー：門川 諒子（視覚伝達D・2年）
作品「光を感じる風景」の展示にあたって…

P5 院内散歩
～手のひらに土、こころに朝顔の花～
特集 A棟2階屋外運動場に咲く朝顔の花

「こんにちは、やさしい美術プロジェクトです。」

～病院訪問会に行ってきました～

やさしい美術プロジェクトの年間行事の一つである病院訪問会。メンバーたちは、実際に患者さんの病室を訪れ「病院」とはどういう場であるのか、病院において自分のできることはなにかを考え、活動へつなげていきます。患者さんの声を聞くことは、メンバーにとっても貴重な体験です。

今回の訪問会をメンバーたちはどのように受け止めたのでしょうか。メンバーたちの率直な気持ちをお伝えします。（編集・竹中 仁美）

芳賀 紗織
（視覚伝達 D・1 年）

ある患者さんから、病院に展示してあるメンバーの作品を毎回楽しみにしているという話を聞きました。自分もそんな作品を作ってみたいと思いました。

門川 諒子
（視覚伝達D・2年）

今回、患者さんが私たちにも問い返して下さったことが嬉しかったです。
好きな絵のモチーフを伺うと、草木や川の流れが良いと答えてくれました。やはり自然は作品制作には欠かせないですね。

田部 佑詞
（総合造形・3 年）

患者さんのお話を伺い、作品は患者さんの生活の範囲となる場所にないと目に触れられないことを実感しました。もっと患者さんに作品を楽しんでもらえるようにしなければ。

竹中 仁美
（情報 D・2 年）

ある患者さんは、頭痛がする中お話をして頂くも、時折見せる笑顔がとても印象的でした。
お話を伺うことができたきっかけは学生と患者さんという立場でしたが、会話中は個人として向き合えたように感じます。

今回の訪問会では、患者さんに面と向かってお話することで、その場所や人の空気を感じることができました。
この経験を今後の活動に活かしていきたいと思います。

天野 入華
（メディア造形・3 年）

竹内 さとみ
（交流造形・3 年）

ある患者さんは、環境や病院職員の人の良さから足助病院に入院されたそうです。足助病院は患者さんにはもちろん、訪問する私たちに対しても心づかいをして下さる、あたたかい病院だと改めて感じました。

ある患者さんからは病院に設置する作品についての考えを伺うことができました。また足助が地元だという患者さんからは、足助の変遷についてのお話を伺えて、とても良い経験でした。

古川 陽介
（日本画・1 年）

田中 佑平
（交流造形・3 年）

昨年の訪問会とは違うことをお話しようと悩みましたが、数人の患者さんから色々お話を伺うことができました。
ここで得たものを取り入れて、僕自身の作品制作に活かしていこうと思います。

患者さんのお話を伺っていると自然に私の祖母の姿と重なり、祖母と話をしているような気がしました。緊張して聞けないこともありましたが、貴重な経験でした。

小平 真理子
（洋画・3 年）

川島 健嗣
（総合造形・3 年）

今回の訪問会で、学内で話し合いをしているだけでは見えてこない部分を見ることができ、自分が活動を続けていく自信になりました。
改めてこのプロジェクトは、誰のために何をすべきなのか再認識させられました。

今回の訪問会で、患者さんは必ずしも美術に興味のある方ばかりではないと実感しました。
美術という枠にとらわれず、心地良いと感じてもらう作品制作をしたいです。

浅野 瑠璃子
（視覚伝達 D・2 年）

山本 祐理子
（総合造形・2 年）

足助に住んでいる方に、地元のことや趣味のお話を伺えました。
昨年の訪問会では、無理に美術のこととつなげてお話をしようと考えていましたが、今年は良い交流ができたのではと思います。

患者さんは「こんなことくらいしか話せないけど…」とお話しながらも、その表情はどこか誇らしげに見えました。
患者さんがそんな気持ちになれるような作品があると良いなと思います。

張 祐寿
（メディア造形・2年）

まっすぐ届く、柔らかな光

～竹中 仁美「薫るh･i･k･a･r･i」作品インタビュー～

階段に設置する照明作品を作ろうと思ったきっかけは？

A棟の売店近くにある階段の雰囲気を、作品を設置することで明るくできればと考え、プロジェクトの過去の作品資料を参考に制作しました。

制作や設置する際に工夫した点は？

発火や漏電など安全面の不安があったため、素材の組み合わせや電球の種類、点灯時間などに気をつけました。また、病院で実際に作品の配置を決める時、頭で考えることよりも手を動かして試行錯誤することが大切だということを学びました。

灯りを包む形のモチーフに竹を選んだ理由を教えて下さい。

はじめはモチーフに「松竹梅」を考えていたのですが、竹は「上に上に伸びていく」「節目を大事にする」という前向きな意味を持っており、日本らしさも持ち合わせていたのでこの形に決めました。また、形状的に熱が発散しやすい理由もあります。

患者さんにはどのように見てもらいたいですか？

患者さんの中には、階段の上り下りが「つらい」と感じる方がいると思います。ふっと一息ついた時に、柔らかな光を感じて、少しでも気持ちが和らげば嬉しいですね。

最後に一言お願いします。

今回はメンバーの作品を参考にしたり、病院の職員さんと何度も話し合うなど、外に向かって自分をひろげることで作品をより良いものにできたと思います。今後は、この経験を活かし、患者さんとの関係を深めた作品制作をしたいと思っています。

（編集・張 祐寿）

▲設置場所をよく調べながら、空間に合わせた作品を作りあげていく作者。

▲和紙でできた、しなやかな竹の灯りが階段を包む。芯の通った、開放感のある空間になった。

こころの窓を共有する

～門川 諒子「光を感じる風景」作品インタビュー～

一メートル以上の、大きなサイズの絵を描こうと思ったのはなぜですか？

昨年、病院訪問会に参加した時、病院に入ってすぐ見える、階段横の大きな壁面に何も飾られていないのを見て「ここに絵を掛けたい」と思ったからです。また、今まで大きなサイズの絵を描いたことがなかったので、描いてみたいと思いました。

この風景はどこの風景ですか？また、この風景を選んだ理由は？

この絵の風景は、私が体力作りのために時々走る近所の広い公園です。走っていてつらい時、風がササッと吹いてきて、ふと周りの風景を見ると元気が出ます。それで、患者さんもこういう景色を見たら元気が出るのではないかと思い、選びました。

工夫した点を教えて下さい。

木や草の色に緑だけを使うのではなく、部分部分に赤などを入れて馴染むようにしました。また、どこまでも細かく描いて、絵でしかできないことを表現すること、写真よりもリアルに描くことを心がけました。普通に描いただけではつまらないと思い、所々に笑顔マークを潜ませました。探してみて下さい。

患者さんにどのように見てもらいたいですか？

窓から景色を見るように、さわやかな風を感じて、ほっとしたり元気になってくれたら嬉しいです。

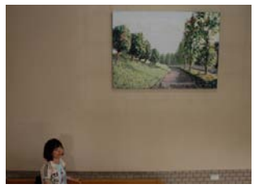
今後の展開などあれば教えて下さい。

まだ具体的ではないですが、患者さんとふれあいながら一緒に絵を描いてみたいですね。また、今回の作品をきっかけに、様々な木を色々なサイズで描いてみたいとも思っています。

（編集・張 祐寿）

▲正確な下書きをするために写真を投映機で紙に投影し、その輪郭を描いていった。

▲いっぱいの光を感じて、吸い込まれそうな作品。



▲壁に突然、窓ができたよう。（左、作者）

今月のBOXマルチ
～私の美術館～

活動記録展「やさしい美術のすべて」開催

四月十四日から十八日の五日間、名古屋造形大学内にあるDギャラリーにて、やさしい美術プロジェクトの活動記録展「やさしい美術のすべて」が開催されました。

展覧会では、六年間に渡るプロジェクトの記録として、各活動拠点となった施設での作品の写真パネルを中心に展示し、活動の軌跡を辿る展示となりました。

また、絵はがきフレーム付きマルチボックス「私の美術館」を使用する患者さんに届ける絵はがきを、来場者がいつ来ても自由に描くことができるよう、制作体験スペースを設置。来場してくれた方々の協力により、約百枚近くの絵はがきを集めることができました。

今回の活動記録展では、学生をはじめ学内外から約二百人が来場。ここで集められた絵はがきはメンバーの手によって仕分けされ、その一部は現在、足助病院の患者さんのベッドサイドを飾っています。

（文・竹中 仁美）

▲制作体験で集まった、個性豊かな絵はがきたち。

▲真剣な面持ちで、あるいは友達と談笑しながら絵はがき制作に取り組む学生たち。なかには1人で何枚も描いてくれた学生もいた。

アマノのひとこと ～コトバツヅ～

また　朝がきて
　今日がよい日になるようにと思う

夜になって
　明日がすてきな日になるようにと思う

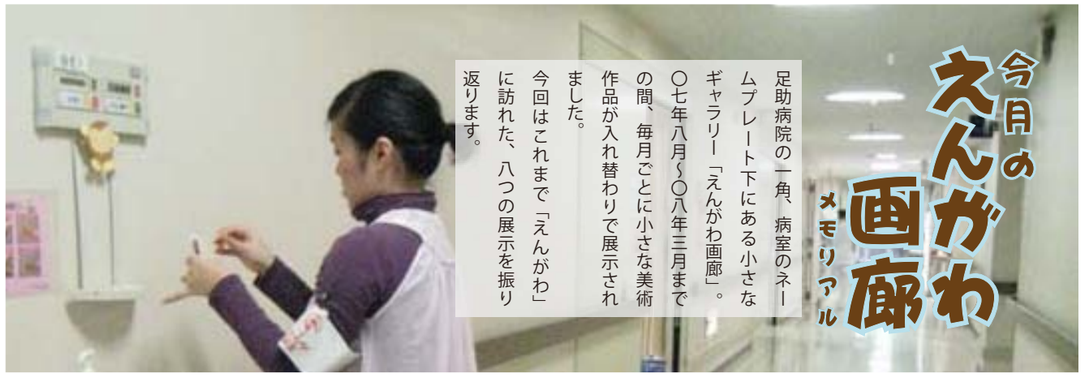
そう思い　願うことが
実はとてもしあわせなことなんだと
私は　ごく最近気がついたんだ

自作詩「ねがいごと」

《作家からのコメント》

七夕のある七月は夜空や星を見る機会が増えます。「星に願いを」という有名な歌がありますが、星にではなくても「ねがいごと」するのは素敵なことです。

何か小さなきれいな願いごとをいつも自分の中に持ち続けたいと思うのです。



今月のえんがわ画廊
メモリアル

足助病院の一角、病室のネームプレート下にある小さなギャラリー「えんがわ画廊」。〇七年八月～〇八年三月までの間、毎月ごとに小さな美術作品が入れ替わりで展示されました。

今回はこれまで「えんがわ」に訪れた、八つの展示を振り返ります。

えんがわ画廊に来たものたち

8月

「いねころころ」
吉田 知古
7月26日～8月30日
手のひらサイズの積み木の表面に光溢れる水田の風景写真がひろがる

9月

「たねんそう-秋の17草」
泉 麻衣子
8月30日～9月27日
足助地方に生息する秋の植物を模した手作りの造花を、展示台に植えるように設置した作品

10月

「ちいさな秋」
菅 りょうこ
9月27日～10月25日
幼い姉妹の秋の一場面を描いた、絵本のような絵画作品

11月

「Jelly」
細川 貴恵
10月25日～11月29日
キャンディの包み紙や雑誌の切り抜きから作られたカラフルなアクセサリーのような作品

12月

「こつつみ」
柴田 さゆり
11月29日～12月27日
「何気ない身近にある物で包む」をテーマにしたクリスマスプレゼントのラッピング作品

1月

「オリジナル招き猫」
12月27日～1月31日
足助の入院患者さんとやさしい美術メンバーが一緒に制作した世界に一つだけの招き猫たち

2月

「Tiny Tiny Garden - 小さな小さな庭」-
荒木 由香里
1月31日～3月3日
「動植物」という不思議なものたちが織りなす小さな庭

3月

「えんがわ訪問」
赤塚 ベッキヰ
3月3日～4月8日
実際に作者が病院を訪れ、患者さんと交流する中で「関係」を築き上げる作品

八ヶ月間の展示を終えて

病院職員さんより

毎月、展示される作品が変わる度になんだろう？という驚きがありました。想像もしないような作品が展示され、さすが美術大学の人だなと思いました（笑）患者さんが食事などで病室の外に出る時に一緒に眺めたり、職員のみんなで一つ一つのネームプレート下を回って見たりしていました。

企画者より

「えんがわ画廊」は二〇〇八年四月をもって、一時休廊させていただきます。それに伴い「今月のえんがわ画廊」のコーナーも今回が最終回となります。今後はより患者さんの気持ちに寄り添ったかたちを目指し、「えんがわ画廊」再開に向け準備を進めてゆきます。また皆様にお会いできる日を楽しみにしています。

（編集・泉麻衣子）

ぶらりみちゆく 足助旅

第四回 足助の昔話（後編）

平勝寺の御前立観音様

その昔、綾渡の平勝寺の観音様を守りたいと泣いた観音様が日下部におった。

日下部の観音様は信心深い二つの村の村人の夢枕に立ち、送り迎えを頼んだ。

願いを聞いた二人の村人はあら不思議、双方の村に向かう道の真ん中でばったりでくわしたそうな。

それが本尊の観音様を守る平勝寺の御前立観音様である。

▲昔、鐘を掛けていたとされる平勝寺の杉。観音様に比べるとまだまだ若い。

▲本堂には御前立観音様が守りたいと願った観世音菩薩様が祀られている。

近日、平勝寺の本堂の聖観世音菩薩様（国指定重要文化財）の御開帳法要があります。

平成20年 9月13日(土)～15日(月)

豊田市綾渡町奥12

鳳凰山　平勝寺 (0565)-62-2241

▲凛とした立ち姿で、今日も本尊の聖観世音菩薩様を守っておられる御前立観音様。素朴でやさしい印象を受ける。

▲平勝寺の坂を上り初めに目に入るのが、御前立観音様の観音堂。

▲小さな仏様が点々と祀られている、平勝寺奥の小道。

発見！町中アート

日常が輝きだす瞬間

なんの変哲もない電柱と電線と空。

あなたはじっくり見たことがありますか？

ただ眺めるだけでは楽しくない。忙しくてそんな暇ないよ！と思った人でも一度見て下さい。

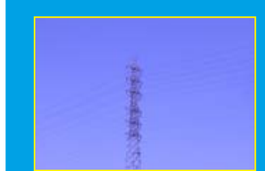
細い電線は、風にゆられながらも電柱同士をつなぐために頑張っている。

こんな様子を見ていると、なにかに見えてきませんか？

こんな風に見慣れすぎているものほど、改めて良く見てみると新しい価値や輝きが生まれてくる。

誰も気づいていないあなただけの価値を見つけてみて下さい。

（文・久保 まり）



病院職員のオススメ！

第４回　公園

推薦者：北村 英子さん（薬剤師）

モリコロパーク

（長久手町）

yasabinoito

◀この時期は水辺の広場が大人気。子どもたちが無邪気に駆け回る。

青々とした木々から暑い光が差し込む夏が来ました。しかし、晴れた日には家で冷房の風に吹かれるより外の風を思いっきり感じなきゃ不健康！今回は北村先生推薦のモリコロパーク。まずは誌面散歩といきましょう。

この公園は二〇〇五年に開催された愛・地球博の会場跡地を整備して造られました。

北村先生はよくご家族を連れて訪れるのだとか。園内にはスケート場や遊具のある広場もあって、休日には子どもたちの笑顔が絶えません。緑もたくさんあって、まさに森の公園。「子どもの自由研究に良い場所」と先生。

ちなみに帰り道には「長久手温泉ござらっせ」で疲れを癒すのが先生オススメの散歩コースとか。皆さんも一度足を運んでみてはいかがでしょう。

（文・赤塚ベッキヤ）

院内散歩

～手のひらに土、こころに朝顔の花～

A棟二階にある運動訓練室を入った奥にある野外運動場。歩行訓練のためのスロープがあり、この時期は素敵な光景を目にすることができます。

それは、スロープを包み込むようにきれいな紫色の姿を見せる朝顔のアーチ。歩行訓練をしながら朝顔の鑑賞。なんとも粋じゃありませんか。

▶満開の朝顔。「たんころりん」を両脇に配置し、納涼気分。

この朝顔も、実はリハビリの一環として患者さんが植えたもの。作業療法の「園芸」なのだとか。「足助病院の患者さんは農家の方が多く、園芸に関しては僕らの方が勉強させられます。」とリハビリの三橋先生。職員も学び、患者さんの知識を尊重することで患者さんが率先してリハビリに取り組めるようにと、日々朝顔の面倒も欠かさない様子。一日一升ずつ伸びる朝顔。患者さんの笑顔を映す足助病院の夏の清涼剤です。

（文・赤塚 ベッキヤ）

院長の一句

幸せな世界の３原則

それは「人権、倫理、そして自律」

人権問題は恋愛と同じ、基本は怒（しょ）

妻有研修紀行

5月18日 名前 古川

僕は今回初めて田植えをやった。ツアーでやるから楽しかったが、仕事でやる人は大変だと思った。今回田植えをした棚田にはカバコというアーティストの作品が置いてあり、間近で見れたのは光栄な事だと感じた。

（オタマジャクシが大量に湧いていたのも印象的）

編集室から……

こんにちは。「ヤサビのイト」を創刊し、今号で半年が経過致しました。

さて、前号より新聞名を「やさびのいと」から「ヤサビのイト」とカタカナ表記に変更しました。これは学生主体で発行しているこの新聞を、より良いものに改良するにあたり、視覚的な見やすさと、「糸」と「意図」をかけて付けた名称の意義を考慮しての変更でした。改めて、刊行物の発行の難しさを感じております。

今年度も当活動はますます加速していきます。ともに編集部も活動にしっかり密着し、皆様にお伝え致します。

（文・竹中 仁美）

ベッキヤ。編集長の「痛いけな私」

お知らせ

絵はがき募集!!

四面連載で紹介されている絵はがきフレーム付きマルチポックス「私の美術館」に飾る絵はがきを募集しています!!

参加希望の方は左記連絡先まで作品をお送りください。

【募集要項】

はがきサイズ

縦100ミリ×横148ミリ

＊横描きのみの募集となります。

＊絵はがきはお返しできません。

＊患者さんに届けるため選定することもあります。

＊絵はがきを記録資料として刊行物・ホームページなどに掲載する場合があります。

絵はがき見本

ホームページ開設!!

やさしい美術プロジェクトの公式ホームページを開設しました!!

作品の搬入や、研究会などの最新情報が載っています。

ぜひご覧下さい。

ホームページアドレスは下記連絡先にあります。

■連絡先

名古屋造形大学　やさしい美術プロジェクト「ヤサビのイト」係

〒485 - 8563　愛知県小牧市大字大草字年上坂 6004

TEL　0568 - 79 - 1111（代）　HP　http : //gp.nzu.ac.jp

FAX　0568 - 79 - 1070　MAIL　gpnews@nzu.ac.jp

［協力］足助病院 / 平勝寺 / 足助町の皆さん / まつだい農舞台事務局

■発行

名古屋造形大学

平成19年度 文部科学省 現代GP採択事業

やさしい美術プロジェクト

［ヤサビのイト編集部］

赤塚 ベッキヤ　泉 麻衣子　竹中 仁美　（情報D・2年）

張 祐寿（メディア造形・2年）　浅野 瑠璃子（視覚伝達D・2年）

第５号（奇数月第３日曜日発行）